



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
http://tsushimi.jp

発行部数 500部
発行月 1, 4, 7, 10月
発行人 都志見病院
広報委員会

年頭のご挨拶



平成4年に現在地に移転しました本院ですが、地域の皆様に支えられ、平成の地域医療を担ってきましたことを深く感謝いたします。

さて、今年は今上陛下が退位され、新しく皇太子殿下が践祚されます。こうした改元は1817年光格天皇の退位後、仁孝天皇(明治天皇の祖父)が践祚され、文化から文政に改元されて以来202年ぶりとなります。外国船が近海に出没し、幕府、諸藩の財政破綻が現実的になる一方、西洋文明の一端が一般に紹介され、歌舞伎や落語など劇場娯楽が隆盛する一方、浮世絵や滑稽本など個人で楽しむ娯楽が人気となり、交通路の発達にともない33か所巡り、伊勢参りなど聖地巡礼が流行していた時代です。大都市から地方へ、共同体から個人へと文化の主体が変わり、利他的、享乐的になった時代です。バブル期がこれに例えられましたが、平成を振り返ると集団から個人へ、海外との文化の送受信の深化など、改元のタイミングや漠然とした閉塞感も含めむしろ今が近いのではとも思います。今回は趣向を変え、平成をざっと振り返ってみます。

平成元年は天安門とベルリンの壁崩壊です。当時は全く正反対の事件で一方は世界的な非難、他方は平和と自由の到来と祝福されました。しかし現在EUと隣国は低迷と繁栄ー内部に問題はあるでしょうがー逆になってます。平成3年バブル崩壊、はじけるとは皆思っていました、あんなに長く深く落ち込むとは思っていませんでした。あの時緩和措置や既に予測されていた高齢化対策など、打つ手はあったはず。普賢岳噴火、23年まではこれ以上の恐ろしさはないと思っていました。平成5年の連立政権発足と6年の自社さ、まさかの連立で政権が目まぐるしく交代するなか7年阪神淡路大震災、我々は結構危ないここに住んでいるの？さらに地下鉄サリン事件、一年前まで利用していた路線でした。2000年問題はなんだったの。13年米同時多発テロ、これはノストラダムスだーその後の欧米諸国による軍事行動やイスラム系組織によるテロも本には言及されていたようなー14年日朝首脳会談、拉致事件への政府野党国民すべての無関心は残念です。17年郵政選挙、結局地方切り捨て劇場でした。20年リーマンショック、21年オバマ政権登場と日本の政権交代、新しい時代が来るかと思った矢先の23年悪夢の東日本大震災、未だに傷跡残る被災地に行くとはやはり平成といえばこの震災です。再開発も進まず今も随所に傷跡が残っています。戦争という大きな災いこそないものの災害と世界の変化が加速し、スマホが手放せなくなり、仕事は患者さんよりパソコンに向かってするとは想像の範囲を超えています。SNSの発展は趣味嗜好の多様化と国際化を加速しました。

想定内の大きな出来事は起こらない。予想外のことは常に起こる。右往左往せずその場で最善を尽くす。これで新しい元号の時代も乗り切っていきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

理事長 都志見 睦生





-シリーズ-

「がん」について知っておこう 「子宮がん」

今回は子宮がんのお話です。子宮がんには、大きく分けて子宮の入り口(子宮頸部:図1)に発生する頸がん、赤ちゃんが育つ子宮の内側(子宮体部:図2)から発生する体がんの二つがあります。この二つには大きな違いがあるので、それぞれについてお話します。

子宮頸がん:原因は、性交渉によるヒトパピローマウイルスの感染です。年間約2万人が罹患、約3千人が亡くなります。昔は50代以上の患者さんが多かったのですが、近年少子高齢化で若者が減ったにもかかわらず、20~30代の患者さんが増えているのが大きな問題となっています。(20~30代女性10万人当たり、1990年は31人。2010年は65人が罹患)自覚症状は不正出血(とくに性交後出血)ですが、かなり進行した頸がんでも、症状がある人は半分です。初期の段階で発見できれば子宮の入り口だけを摘除する手術ですみませんが、進行した段階では子宮だけでなく骨盤内のリンパ節も摘出する大掛かりな手術になりますし、放射線や抗がん剤による治療も必要になります。

子宮体がん:原因の90%は女性ホルモンのアンバランスなので、閉経間際の40代後半から急に患者さんが増えます。また食生活や生活習慣の欧米化のため患者数は年々増加しており、年間約1万人が罹患、約2千5百人が亡くなります。頸がんに比べると体がんの方が初期から不正出血をきたすことが多いですが、全く症状が無い場合もあります。治療は初期でも子宮と卵巣を摘出するのが原則で、進行した段階では頸がんと同じような大掛かりな手術を行い、その後に抗がん剤治療を行います。

どちらの癌も検診で早期発見して治療すれば生存率は高いのですが、残念ながら山口県の子宮がん検診受診率は全国最下位です。

(全国平均42.1%。山口県37.3%。欧米の先進国は70%以上)

検診を受けていれば100%見逃しがなくて安心、とは言えませんが、自覚症状が出てからの受診では遅いこともあるので、がん検診をぜひ受けていただきたいのです。ただ注意することがあります。子宮癌検診は、住民健診(市町村が主体)、職場健診(勤務先が主体)、人間ドック(個人の自由)、で受けられますが、健診によっては子宮頸癌だけで体癌は検査しないものがあります。また細胞診(と内診)だけのものがほとんどです。当院では子宮がん検診の際、エコーも行っています。これで無症状の子宮体がんや卵巣腫瘍が見つかることもあります。女性にとって婦人科の診察は嫌なものですが、診察時間は長くて5分、通常は3分以内です。1~2年に1回、3分間だけちょっと我慢して、がん検診を受けませんか？

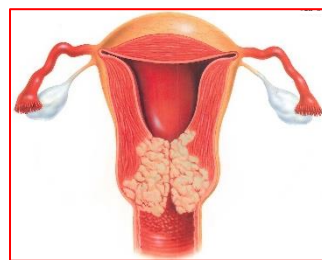


図1 子宮頸がん

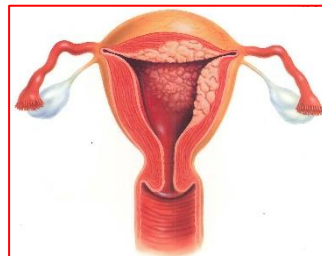
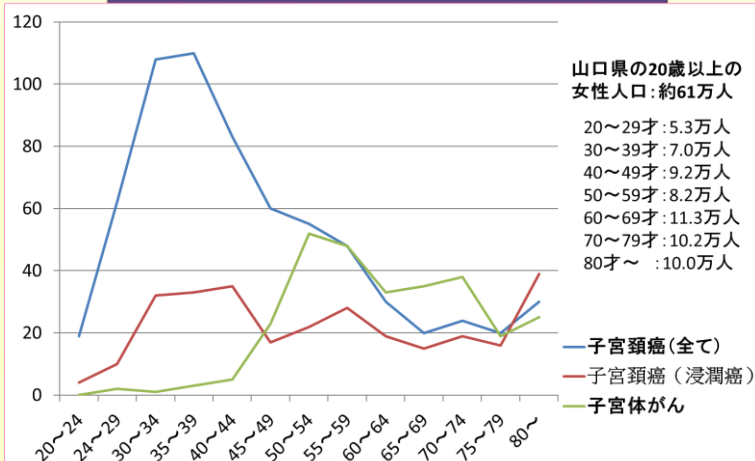


図2 子宮体がん

山口県の年齢別子宮がん罹患率

(人口10万対:2014年)



産婦人科医師 宗 完子

産婦人科医師と外来スタッフ





都志見病院

地域がん公開講座のお知らせ

『がんと共に生きる ～家族の立場から～』

流通ジャーナリストであった夫の金子哲雄氏を看取られ、その体験を基に在宅終末医療や死について社会に考えてもらう活動や取組みを精力的に行われている金子稚子さん。

家族が“がん”になった時どう支えるのか。自分自身はどう生きるのか。この講演はきっとあなたの心の1ページに刻まれることと思います。

日時: 2019.3.3(日)

受付: 13:00～ 講演13:30～

会場: 萩グランドホテル天空 2階
「菊の間」(先着順)入場
無料申込
不要

〒758-0026 萩市古萩町25番地 Tel.0838-25-1211

【お問い合わせ先】

医療法人医誠会 都志見病院 ☎0838-22-2811



講師

かねこ わかこ
金子 稚子 先生ライフ・ターミナル・ネットワーク代表
終活ジャーナリスト第13回
出前講座

“がん”について知っておこうin弥富を開催しました

山本達人副院長

患者サロン“だいたい”
代表 岡野芳子氏都志見居宅介護支援事業所
ケアマネージャー 中山 京子

平成30年11月17日(土)弥富交流促進センターにて、第13回出前講座を開催しました。今回は、がんに関する情報はもちろんの事ですが、ケアマネージャーによる「病気になっても家で暮らすためには」という視点からの講演もあり、地域住民の方をはじめ、医療連携に関わる方や地域を支えるメンバーの方々など多くの方がご参加くださいました。次回は…!? 当院はこれからも萩地域に根ざした“がん”の啓発活動を行って参ります。

平成30年度認定審査を受け、このたび認定証を頂きました。皆様ご存じのように、今は、2人に1人はがんにかかる時代です。治療には、手術・薬物療法・放射線治療とありますが、最近、ノーベル医学・生理学賞受賞本庶佑特別教授が切り開いたがん免疫療法(オプジーボ)に関心が向けられています。しかし、がんを告げられた時に、なぜ私のがんになるの?と受け止める方が大半を占めるといいます。ご本人の受け入れや理解が追いつかないままに治療が進んでいくのが現状かもしれません。がんにかかった本人はもとよりご家族もどのように接していくのが良いのか戸惑いながら経過していくのではないのでしょうか。認定看護師の役割として、実践・指導・相談とあります。患者さん・第二の患者ともいわれるご家族の揺れ動く気持ちに寄り添いながら苦痛が少しでも軽減できるようにお手伝いさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

がん化学療法
看護認定看護師

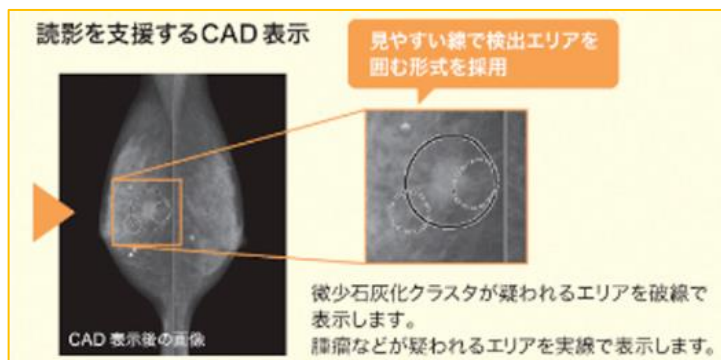
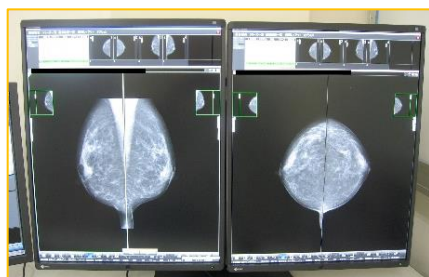
右田浩子

マンモグラフィCADシステムのご紹介



昨年末、外科診察室1台と放射線部1台の画像診断モニターがマンモグラフィ用高精細モニターに更新され、あわせて導入されたCADシステムにより、マンモグラフィのフィルムレスモニター診断とCADによる診断支援ができるようになりましたのでお知らせいたします。CAD(Computer Aided Diagnosis)とは、コンピュータ支援診断のことで、X線画像の持つ豊富な情報をコンピュータ解析することにより、医師の診断に役立つ付加価値を提供するものです。マンモグラフィは女性におなじみの乳房を圧迫版で挟んでX線を照射し、画像化する検査です。乳がんはこのマンモグラフィの中では白く写り、小さいものでは直径わずか数百 μm ～数mm程度です。このような小さなものを同じく白く写る乳腺組織と判別しなければいけないため、マンモグラフィの読影は専用の高精細モニターで読影することが望ましく、またX線画像診断の中でも特に難易度が高く、集中力を要する作業だといわれています。CADは、乳がんの疑いのある陰影を高精度で自動検出し、その結果を医師が読影する際に役立てることができます。病変の見落としを防止し、診断の精度を向上させることができるほか、読影作業のストレス軽減にもつながり、乳がんの早期発見に大きく貢献されることが期待されています。年々増加する乳がんに対して、少しでも早期発見ができるよう、私たち放射線部においても、より良い画像を提供し、安心して検査を受けて頂くことができるよう努めてまいります。

皆様の積極的な検診のご利用を是非お待ちしております。 放射線部



「第4回 WHO世界医療機器フォーラム」に参加して

12月13日～12月15日に『インド アンドラプラデシュ州 ヴィジャカパートナム』で開催された、『第4回WHO世界医療機器フォーラム』に公益社団法人日本臨床工学技士会の公務として参加してきました。このフォーラムは、主に発展途上国における医療の向上を目的とし、医療機器に視点をのけた指針の報告など様々な議論が行われるものです。

日本の臨床工学技士は、患者様のベッドサイドで行う治療(臨床)と、医療機器の保守点検(工学)に関わる事ができる世界で唯一の国家資格です。この度、世界中の医工学に関連する人や団体が、日本の臨床工学技士制度に興味を持っていることを実感することができました。これからも、臨床工学技士として患者様やスタッフへ、安心・安全な医療機器を提供できるよう、広く見識を深め、技能の研鑽に努めていきたいと思います。

臨床工学部 野村 知由樹



永年勤続者表彰

昨年末に開催された都志見病院大忘年会にて、永年勤続表彰がありました。この度は勤続年数30年2名、20年3名、10年9名、計14名の方々が授与されました。このような素晴らしいスタッフに恵まれ、当院はこれからも地域の皆さま、患者さまに貢献できる病院を目指して参ります！！





医学洋雑誌に掲載されました



外科 坂本和彦医師の論文が洋雑誌に掲載されました。

タイトル: Combined therapy using interventional radiology and surgical management for a ruptured pseudoaneurysm of the iliac artery: A case report

雑誌名: International Journal of Surgery Case Reports

タイトル: Hybrid method with explorative laparoscopy and anterior open approach for re-recurrent inguinal hernia: a case report.

雑誌名: Journal of Surgical Case Reports

学会発表してきました

学会シーズンの秋
各地で発表してきました



第34回 日本診療放射線技師学術大会 in 下関

9月21日から3日間、下関市の海峡メッセ下関で行われた第34回 日本診療放射線技師学術大会に参加してきました。その中の医療画像情報精度管理士分科会で「当院における医用画像情報の管理運用」という演題で発表させていただきました。最近ではAIの進歩もあり今後医療における医用画像情報の重要性が一層増してくると思われます。診療放射線技師として医用画像情報の管理または知識の修得に努めてまいりたいと思います。



放射線部 診療放射線技師 静間一樹

第80回 日本臨床外科学会総会 in 東京

早期胃癌に対し内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)後、節外浸潤を伴うリンパ節転移を認めた1例

- 外科 亀井滝士

Hybrid法による修復術を施行した再々発鼠径ヘルニアの例 - 外科 西村謙祐

当院における直腸脱に対するDelorme手術の検討 - 外科 徳久晃弘

早期胃癌に対し内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)後、
節外浸潤を伴うリンパ節転移を認めた1例



医療法人医誠会都志見病院 外科
亀井滝士、山本達人、徳久晃弘、西村謙祐
坂本和彦、北村義則、安藤静一郎

TSUSHIMI Hospital Dep. of Surgery

TSUSHIMI Hospital

Hybrid法による修復術を施行した
再々発鼠径ヘルニアの1例



都志見病院
西村謙祐、坂本和彦、徳久晃弘、
亀井滝士、北村義則、
山本達人、安藤静一郎

TSUSHIMI Hospital

2018年11月 第80回日本臨床外科学会

当院における直腸脱に対する
Delorme手術の検討



都志見病院 外科
徳久晃弘、坂本和彦、西村謙祐
亀井滝士、北村義則、安藤静一郎
山本達人

第72回 長北医学会 in 長門

緊急救命用バッグ(エリートバッグ)の見直し - 外来 宮本沙織
都志見病院におけるNST (Nutrition Support Team) 介入効果の検討

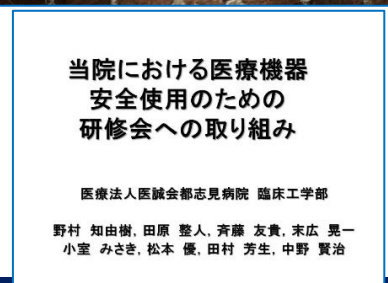
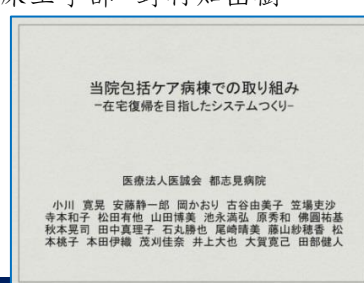
- 都志見病院NST 内田真理

当院包括ケア病棟での取り組み-在宅復帰を目指したシステムづくり-

- 理学療法士 小川寛晃

当院における医療機器安全使用のための研修会への取り組み

- 臨床工学部 野村知由樹



ナースの ひとつぞ

ケーススタディ 発表会

6階：土田

経験したことのない援助に対する不安がある患者様との関わりから学んだこと

11月29日会議室で行いました。患者様との関わり・看護を通して、悩み・考え・学びました。これからも一生懸命看護の道を歩んでいきます……！！

5階：竹岡

終末期で拒否の強い患者様との関わりを通して学んだこと



外来：大田
内視鏡検査に対して恐怖心を持つ患者様への関わりから学んだこと



患者サービス向上委員会からのご報告

糖尿病教室



演題
「糖尿病と腎臓」
講師 糖尿病専門医 正木 洋治 先生

毎年恒例となっております糖尿病講演会を11月28日(火)に開催し、今年は、30名のご参加がありました。糖尿病専門医の正木洋治医師より「糖尿病と腎臓」についての講演を実施、併せて血糖測定や飲み物の展示、すごろくゲームなどを行いました。来年度も開催予定です。開催日時など詳細は事前に院内のポスターにてお知らせしますので、ご興味がおありの方はお気軽にご参加下さい。お待ちしております。

飲み物のカロリーと糖質量



糖尿病
すごろく
ゲーム

血糖測定

クリスマスキャロリング

萩光塩学院の皆さん15名による
クリスマスキャロリング



12月21日午後 玄関ロビーにて開催しました。患者様、職員合わせて約60名の参加がありクリスマスのひと時を楽しみました。

- ♪ 荒野の果てに
- ♪ 聖夜
- ♪ ホワイトクリスマスなど……

美しい歌声をありがとうございました♪





No.6

痛みケアの一助 ～ソマセプトミオ～

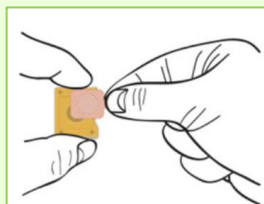
今回は痛みを軽減することができるソマセプトミオをご紹介します。ソマセプトミオのマイクロコーン群が皮膚に触れることで、やさしい刺激が生じます。痛みとして感じられないほどの繊細な刺激を皮膚神経へと確実に伝え、治療効果をもたらします。関節の痛みや筋肉の凝り・痛みのある方に使用していただきます。使い方は、疼痛部位周辺を指で押します。その中でも、より痛いと感じる点や、気持ちいいと感じる点に貼ってください。また、硬結部位(コリ)がある場合は、そこに貼って下さい。今後は売店にて販売いたします。貼り付け部位に関しては、リハビリまでご相談くださいませ！



マイクロコーン拡大図



カートリッジから剥がし、マイクロコーンを絆創膏ごと貼り付けてください



クラブ活動【都志見ダンスクラブ】

忘年会での披露は大盛況♪練習の成果を発揮できました！

平成30年度都志見病院ク



【都志見ランナースズ】

秋冬はランニングシーズン！

今年は秋吉台カルストトレイルラン・下関海響マラソン・ホノルルマラソン・萩城下町マラソンに参加しました。これからも走り続けます！

